

表彰を受けられた方々おめでとうございます。今後益々のご活躍をご期待申し上げます。(敬称略)

業務功勞

- 赤十字社業務功勞表彰 (日本赤十字社創立140周年記念)
○ 厚生労働大臣特別表彰
西野 優子(蜷川赤十字奉仕団(富山市)
小矢部市赤十字奉仕団
庄川町赤十字奉仕団(砺波市)
舟橋村赤十字奉仕団
○ 日本赤十字社長特別表彰
瀬尾 並木(砺波市赤十字奉仕団)
高野美奈子(立山町赤十字奉仕団)
道用 美枝(朝日町赤十字奉仕団)
山谷美津子(中田赤十字奉仕団(高岡市))
● 厚生労働大臣感謝状
安野屋赤十字奉仕団(富山市)
● 富山県功勞表彰
南砺市利賀赤十字奉仕団
● 金色有功章(継続20年)
西野 優子(蜷川赤十字奉仕団(富山市))
● 銀色有功章(継続15年)
辻本 璋子(東赤十字奉仕団(氷見市))
富山県アマチュア無線赤十字奉仕団
富山県青少年赤十字賛助奉仕団
● 金柁感謝状(継続10年)
野村 絹子(吉久睦赤十字奉仕団(高岡市))
藤井 暁子(としび赤十字奉仕団)
● 銀柁感謝状(継続5年)
尾島美恵子(愛五赤十字奉仕団(富山市))
武田 典子(庄川町赤十字奉仕団(砺波市))
屋敷 信子(小矢部市赤十字奉仕団)
吉國 姫子(福岡町赤十字奉仕団(高岡市))

社資功勞

- 厚生労働大臣感謝状
木村 昭二(福岡町赤十字奉仕団(高岡市))
● 日本赤十字社長感謝状
木村 昭二(福岡町赤十字奉仕団(高岡市))
小西 広一(新庄北赤十字奉仕団(富山市))
ハリタ金属(株)(福岡町赤十字奉仕団(高岡市))
● 金色有功章
岩間 茂彦(魚津市赤十字奉仕団)
高野 眞喜(伏木赤十字奉仕団(高岡市))
高岡中央赤十字奉仕団
蜷川赤十字奉仕団(富山市)
● 銀色有功章
井瀨 幸子(福岡町赤十字奉仕団(高岡市))
奥野 蓉子(福岡町赤十字奉仕団(高岡市))
加藤 邦子(小矢部市赤十字奉仕団)
城村 照美(新湊中央赤十字奉仕団(射水市))
中西 順子(小矢部市赤十字奉仕団)
橋本 英司(伏木赤十字奉仕団(高岡市))
藤田 敬子(高岡中央赤十字奉仕団)
山崎 吉清(福岡町赤十字奉仕団(高岡市))
山谷美津子(中田赤十字奉仕団(高岡市))
吉國 姫子(福岡町赤十字奉仕団(高岡市))
米島 秀一(新湊中央赤十字奉仕団(射水市))
新湊中央赤十字奉仕団(射水市)

ボランティア保険

日赤県支部が加入しているボランティア保険について、お知らせします。
不慮の事故(大小に関わらず)の際は、所属奉仕団委員長を通じ、市町村の日赤担当者(県支部へ報告して下さい)。

- 保障内容
・他者への賠償金 5億円
・自身の傷害 死亡・後遺障害 1,254万円
入院一日ごと 6,300円
通院一日ごと 4,200円
○ 保障となる活動
・日本国内における奉仕団活動
(所属奉仕団及び日赤県支部が認めるもの)
※会議や研修会も含まれます。海難、山岳救助活動は対象となりません。



例年になく強い冬の気圧配置の影響で、今冬はたくさん雪が降りました。除雪に追われ、汗かく人々。春が待ちどおしいと思う日々が続いています。
今年度の紙面には、岡崎委員長(富山県)の奉仕団の結成などに関する説明や意義、また、いつくしみの会や活動推進奉仕団報告、災害救護活動報告、我が団の紹介など、奉仕団員として参考にするべきことが多々ありました。
平成30年度の研修旅行も決まり、乙女に戻って宝塚観劇と、楽しみにしています。
発行にあたり、ご寄稿いただいた皆さまに心から感謝とお礼を申し上げます。
(深川記)

- 編集委員
岡崎 智子 深川 紀子
高村 浩之 掃部 喜巧
伏江美保子 黒畑 喜昭
古川寿加子 市山 恭子
坂井 繁之 塚本亜由美



奉仕団とやま

発行 赤十字奉仕団 富山県支部委員会
富山市飯野26-1
日本赤十字社富山県支部内
電話(076)451-7878
年1回発行

本年は、赤十字奉仕団創設70年の節目を迎えます。戦後の昭和23年に日本赤十字社再建のために、アメリカ赤十字の指導のもとに日本各地に赤十字奉仕団が結成され、現在に至っております。

富山県でも奉仕団は結成されましたが、時がたつにつれ、有名無実な組織であつたり、婦人会との二枚看板で赤十字奉仕団としての存在意義がないものとなつていきました。

そこで、本来の活動を展開しようと、赤十字奉仕団の再検討を行いました。結成されていた奉仕団を解体し、ゼロからの再出発の大冒険でありました。昭和38年に純粹赤十字奉仕団の第1号が結成され、その後、平成3年に

赤十字奉仕団に今、思うこと



赤十字奉仕団中央委員会副委員長
赤十字奉仕団富山県支部委員会委員長
岡崎 智子

昨年6月、日本赤十字社において、赤十字奉仕団中央委員会が開かれ、役員選考会で、第3ブロック(北陸・中部地区8県)と第4ブロック(近畿地区6県から)の委員長の中から1名の副委員長となることが規定になってお

ます。
害に対する迅速な対応力をより高めなくてはならない。そこで、肝要となるのが、今一度ボランティア精神の原点に立ち返ることです。ボランティア精神こそが支援の第一歩、現状に満足せず常に新しいことにチャレンジしていくことが大切であり、赤十字奉仕団が

県下全市町村にうまく結成でき、ついに目標が達成されました。その奉仕団が50年、40年などの記念式典をそれぞれ開催され、団員意識の高揚や赤十字奉仕団活動の活性化に繋がっていることに変化嬉しく思っております。

り、若輩の私が推薦されお引き受けすることになりました。
なお、過去には、赤十字奉仕団富山県支部委員会元名誉委員長の喜多野花枝様は、長く中央委員会副委員長として、また、現在、名誉委員長であります山下和夫様は、中央委員会副委員長、委員長として大変にご活躍されました。お二人のご意志を受け継ぎ、富山県の奉仕団情報を発信していきたいと思っております。みなさまの温かいご指導、ご協力を賜りながら重責を全うしたいと存じます。
近衛忠輝(近衛忠輝)
赤十字社々長の年頭のご挨拶に、「我が国は、大規模災害を経験し、被害を目のあたりにし、あらゆる災害に対する迅速な対応力をより高めなくてはならない。そこで、肝要となるのが、今一度ボランティア精神の原点に立ち返ることです。ボランティア精神こそが支援の第一歩、現状に満足せず常に新しいことにチャレンジしていくことが大切であり、赤十字奉仕団が

先兵となつて活動することを期待します。」とありました。
この言葉のように、赤十字奉仕団は、日本赤十字社の基盤を支える重要な柱であり、それぞれの地域で各種団体と連携を図りながら一緒に活動を進めております。私たちは、地域の中で信頼される赤十字の顔であり、期待される奉仕団になるよう努力していきたいと思ひます。
今年も家族に感謝し、元気で活動されるようお願いいたします。

赤十字奉仕団結成状況

Table with 3 columns: Category (National/Toyama Prefecture), Type (Local/Youth/Special), and Count (Number of Branches/Number of Members).



研修旅行記
黒部市石田赤十字奉仕団
委員長 高村代美子

今年度の奉仕団旅行は、初めて日帰りの旅程が生まれ、これまで参加していなかった団員も気軽に参加できるようにになりました。そのため、参加申込者は予想を大きく上回って1000人を超え、当初予定していた10月12日だけでも設定されたそうです。

研修旅行記

能登路へ研修旅行

10月17日、私たち赤十字奉仕団は、能登へ自然と伝統の系譜をたどる旅へ出発しました。

さすがにいい顔に……。その後、一度は訪れたいと思っていた「花嫁のれん館」に行き、幕末から明治にかけて嫁入り時に能登・加賀・越中で始まった婚礼の風習のひとつを見学しました。館内には、花嫁が嫁ぎ先でくぐるのれんが展示されており、それは時代と共に華やかさが増してきて、嫁ぐ花嫁の決意のようなものを感じました。一方で、平成の現代は色々豊かになってはいますが、美しい伝統が少なくなつたようで、寂しくも感じました。旅の最後は「一本杉通り」の商店街で登録有形文化財の数々にふれる散策でした。能登の歴史や伝統文化、自然の美しさに寄り添い生きる人々の思いを今回味感じ、私たちもそれぞれの地で育んだ思いや「奉仕の心」を、絶やすことなく次の世代へ伝えていきたい、そんなことを思った一日でした。

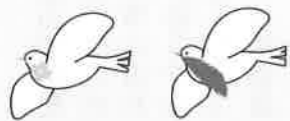
平成29年度 富山県支部扱い義援金・救援金

※金額及び件数は1/31までの累積

- 国内**
- 東日本大震災義援金 55件 13,364,331円
- 平成28年熊本地震災害義援金 88件 2,001,989円
- 平成28年新潟県糸魚川市大規模火災義援金 9件 515,943円
- 平成29年7月5日からの大雨災害義援金 39件 4,474,788円
- 秋田県大雨災害義援金 7件 184,980円
- 平成29年台風第18号災害義援金 3件 44,727円
- 平成29年台風第21号災害義援金 2件 21,158円
- 海外**
- 中東人道危機救援金 1件 3,000円
- 2017年南アジア水害救援金 3件 41,842円
- バングラデシュ南部避難民救援金 3件 108,000円
- 無指定海外救援金 1件 10,000円
- NHK海外たすけあい 667件 4,596,461円

合計 878件 25,367,219円

(郵便振替を利用され、日赤本社や被災地支部に直接送金された分の件数・金額は、この記載に含まれておりません)



平成30年度県支部奉仕団事業計画

- 4月 赤十字奉仕団富山県支部委員会 (富山市)
 - 5月 赤十字運動月間 会員増強運動
奉仕団街頭PR活動(広報紙・ティッシュ配り)
在宅ひとり暮らし高齢者訪問 (BOXティッシュ)
全国赤十字大会 (東京都)
 - 6月 赤十字奉仕団中央委員会 (本社)
支部施設合同災害救護訓練 (富山市)
第3B青年赤十字奉仕団代表者会議 (三重県)
赤十字奉仕団富山県支部委員会常任委員会・研修部会 (支部)
 - 7月 愛の血液助け合い運動月間
赤十字奉仕団研修会 (富山市)
 - 8月 赤十字ボランティア・リーダー研修会 (東京都)
富山県総合防災訓練 (氷見市・高岡市・射水市)
 - 9月 第3B赤十字奉仕団委員長会議 (石川県)
 - 10月 赤十字奉仕団研修旅行 (兵庫県)
 - 11月 赤十字奉仕団富山県支部委員会常任委員会 (支部)
赤十字奉仕団委員長会議 (立山町)
 - 12月 NHK海外たすけあい
赤十字奉仕団中央委員会常任委員会 (本社)
赤十字奉仕団研修部会役員会 (支部)
 - 1月 赤十字奉仕団とやま編集委員会 (支部)
 - 2月 赤十字奉仕団富山県支部委員会常任委員会 (支部)
赤十字奉仕団支部指導講師研修会 (本社)
赤十字奉仕団とやま編集委員会 (支部)
 - 3月 赤十字奉仕団とやま (第34号) 発行
- *第3B (第3ブロック) 富山・石川・福井・岐阜・長野・愛知・静岡・三重 8県で構成)

「いつくしみの会」発足10年

赤十字奉仕団委員長OB会
会長 瀬尾 並木



赤十字奉仕団委員長を退いた人たちが、赤十字の三文字を心に抱く者同士その灯を消すことなく友情を結び続けたいと願って立ち上げたのが、「いつくしみの会」です。岡崎智子現県支部委員長委員長のご尽力があり、ひとつにまとめることができました。今では会員も70名を超え、全員、長い奉仕団活動を経て得たたくさんの方の知識と経験があります。

一年を振り返る総会では、活動報告をします。その後は県下全域から旧知の仲間が集まったこともあり、自団の現況を話したり、前進のための改善策を提案したりします。

しかし、本音を申しますと、このあとにはお楽しみ本番が待っています。それぞれが自分の近況を話すのはもちろん、活動当時の思い出や社会情勢、失敗談などを聞くうち、笑い声が上がって一気に盛り上がりがあります。

す。そして、志を同じくした仲間がいます。赤十字マークで繋がれ、地域や年齢を超越した、大切な仲間です。「いつくしみの会」が始まって10年。私たちは今も奉仕団として世界の赤十字の末端に加わられたことを誇りに思っています。継続は力なり。を心に刻み、小さな力ですが、お役に立ちたいと思いつけています。

ボランティア(青年)募集のお知らせ

【こんな方】

- 1 ボランティアに興味のある方
- 2 富山県内で継続的に活動できる方
- 3 赤十字の活動に興味がある方
- 4 18歳〜30歳の方

(学生・社会人は問いません)
【活動について】①②どちらかでも可

- ①富山県立乳児院 (抱っこ、遊び相手、除草など)
- ②このゆびとーまれ (話し相手、遊び相手など)

今は登録メンバーが数名です。一人一人に合った活動の仕方を考え、少しずつ活躍の幅を広げていきたいと思っています。まずはお気軽にお問い合わせください。【奉仕団担当 塚本】

平成三十年度の研修旅行ご案内

左記の研修旅行が、1月17日の常任委員会で決定されました。詳細な旅程・募集は委員長にお知らせします。

神戸・宝塚の旅

- ・日(1泊2日)
- ・10月10日(水)〜11日(木)
- ・募集人数 40人
- ・主な内容(全行程バス利用)
- ・人と防災未来センター見学
- ・有馬温泉宿泊
- ・宝塚歌劇観劇

なお、平成31年度は、富山県赤十字奉仕団創設70年を記念し、日本赤十字発祥の地・九州を巡る旅(2泊3日)を予定しています。

平成30年度に 周年記念を迎える奉仕団

赤十字奉仕団活動を地域に根付かせたご苦労を思い、後輩につなげていくことを願いながら、節目の年を皆でお祝いいたします。

- 四〇周年 八尾町赤十字奉仕団 (富山市)
- 白菊赤十字奉仕団 (富山市)
- 南砺市福光赤十字奉仕団
- 射水市大江赤十字奉仕団
- 高岡中央赤十字奉仕団
- 四方赤十字奉仕団 (富山市)
- 富山赤十字病院奉仕団
- 三〇周年 南砺市井口赤十字奉仕団



**福祉施設での
高齢者とのふれあい**

庄川町赤十字奉仕団(砺波市)
委員長 武田 典子

地元の福祉施設ケアポート庄川が、介護予防・認知症予防を目的とした「予防ひろば」という新しい事業を始められることに合わせ、当奉仕団員が高齢者とのふれあい活動をさせていた。多くことになりました。この施設では、開所当時からたくさんのグループがボランティア活動を行っていたため、その中で、この新たな活動が受け入れられるか、心配しながらの取り組みでした。

今年度、活動推進奉仕団として指定

活動推進奉仕団報告

**福祉施設での
高齢者とのふれあい**

委員長 武田 典子

利用者さんともう顔なじみになり、「あなた当番やったがけ、ご苦労さんな」「またこれ、待ってっちゃ」など、やさしく声をかけられるようになってきました。施設の方からも「ありがとう」と言われ、自分の心もあつたくなるひと時を過ごさせてもらっています。

当団は、男性団員がいることで、新たな活動だけでなく、地域での防災訓練やひとり暮らし高齢者訪問などが充実したものとなり、地域で頼りにされるようになりました。これからも地道な活動を続け、共助の心を育んでいきたいと思っています。



昨日、午後3時から、計画していた献立に基づき、ハイゼックスを使ったご飯(梅干し入り)、おでんや肉じゃが、鶏の唐揚げ、きんぴら、かぼちゃ



**日本赤十字社富山県支部
からの救援物資**
(4世帯6人を対象に配布)

- ・毛布4枚
- ・綿毛布2枚
- ・緊急セット4組
- ・カセットコンロ3台
- ・鍋セット4組
- ・タオル40枚

の煮物などを調理し、また、参加者から里芋の煮物や白菜の漬物などの差し入れもありました。早速、避難されている皆さんと、現場や行政センターの関係者にもお配りしました。

届けられる物資は、カップラーメンやレトルト食品が多く、温かい炊き出しは大変喜ばれました。参加した団員からも「何か出来ることはないかと思っていた。思いが形になった。」との声がかれました。

災害は、いつどこで起きるか分かりません。今後も地域と連携し、奉仕団として何が出来るかを考え、行動していきたいと思っています。

《我が団の紹介》

高岡南部丸美赤十字奉仕団

委員長 伏江 美保子

皆様ご存じのように、平成27年5月、当団は50周年を迎えました。団員は50周年を機に70人余りになりましたが、それでも少しずつ入団もあり、喜んでいます。

現在、団の独自活動として、月一回の定例会の開催とコーラス、ペットボトルのふた回収を行っています。ふたは、これまで65kg集まりました。

県の統一活動では、社資を団員から募り、海外たすけあいにも協力しています。高齢者訪問では少し工夫し、新聞エコバックにティッシュBOXを入れて届けました。昨年の市総合防災訓練では、各町内婦人部の応援を得て900食の炊き出しを行いました。ハイゼックスを使わない炊き出しも考え、お釜にお米1合に何gのさざなみを入れたらおかずなしに食べられるかも作ってみました。10gの味が良かったです。2月には、念願の災害時高齢者生活支援講習を受ける予定です。毎年積み重ね、団員の知識向上に繋げたいと思っています。



南砺市福光赤十字奉仕団
委員長 森田 由紀子

こんにちは、福光奉仕団です。当団は、昭和53年に発足し、諸先輩方が築かれた長い歴史の下、活動を続けています。小矢部川が町の中心を流れ、医王山の優しい姿が西に望める美しい田園地帯です。棟方志功ゆかりの土徳の里として知られ、現在は団員46名で活動しています。

年2回の高齢者訪問は、300名ほどの方に春はティッシュ、昨冬はレトルトのおかゆとカイロをお渡しするなど工夫しています。熊本地震の折は、町内2カ所のショッピングセンターでかつぼう着姿で募金活動を行い、赤十字をPR。研修会ではAED訓練を重ねるとともに、本年1月には三角巾の正しい使用法を学び、大好評でした。独自の活動としては、年1回、福祉のついでで全員参加の炊き出し訓練を行い、特別養護老人ホームやすらぎ荘では月1回のカラオケ活動日に参加し、運動会や夕涼み会、菊まつりでは介助。遊笑座公演にも出演し、寸劇や踊りで楽しいひと時を共有しています。市政バス研修では、美術館や桜ヶ池エコビレッジを見学し、市の取り組みも学びました。また、昨年は、市のボランティア連協の一員としての震災食も講習に取り入れ、各地区の公民館や防災訓練にも参加しました。

地元の方たちとのより深い連携を目指し、笑顔いっぱい頑張り



新庄赤十字奉仕団(富山市)

委員長 黒畑 喜昭

当団は、昭和55年5月に結成され、平成26年4月には新庄北赤十字奉仕団と分離しましたが、今は男性20名、女性61名の計81名の団員数となりました。地域コミュニティの活性に取り組み、活動内容を「新庄赤十字奉仕団だより」でお知らせしています。

夏の校下納涼祭では、家族連れで楽しめる七夕やミニゲームコーナーを設けたり、秋の住民運動会では、看護師さんの応援をいただき、救護班として大会を見守りました。9月には「平成29年度富山県総合防災訓練」が富山市と立山町で開催され、地元新庄小学校会場で避難所を想定した炊き出し訓練を住民や自衛隊との合同で行いました。準備したカレーライスは好評で、400食分は1時間足らずでなくなりました。また、以前、小学校の先生からお聞きした「今、子どもの20人に1人は、何らかの食物アレルギーを持っている」との発言が印象に残っていたため、この訓練で初めて、カレーの原材料名をパネルで貼り出し、訪れた子どもたちに「食物アレルギーの人はいませんか」と声をかけました。この取り組みには、保健所の方も関心を持って見られました。



今回、活動の一部を紹介しましたが、これからも地域に根ざした活動を推進していきたいと思っています。

平成29年度 富山県赤十字奉仕団研修会

7月6日、サンシップとやまで研修会を開催しました。今年度は、富山県赤十字奉仕団が行う6つの統一活動について改めて考え、他団の事例を聞き今後の活動に役立てていただきたいとの思いで企画しました。

ここでは、6つの統一活動の紹介と、研修会に参加の委員長・副委員長から寄せられた声を掲載します。

①ひとりぐらし高齢者訪問活動

【概要】

・昭和52年から行う富山県だけの社会福祉活動（40年の歴史）
・5月の赤十字運動月間に実施し、ティッシュペーパーBOX5箱を持参
・ひとりぐらし高齢者への慰問（ふれあい）活動
・対象者は、地域奉仕団が活動を行う地域に居住する80歳以上のひとりぐらしの高齢者
・青少年赤十字に加盟する地域の小学生とともに実施する奉仕団もある

第9回「もつとクロス！大賞 入賞」
（日本赤十字社主催）



・不在のときも多く、なかなか手渡しできない
・ティッシュペーパーBOX5箱は地域のお店で購入（6年生）と訪問
・お年よりは子どもが好き

※全国の赤十字奉仕団活動の中でも、優れた活動であると評価され、受賞
【参加者の声】

・「顔を見に行く」「元気の確認」という思いで訪問している
・ティッシュペーパーBOX5箱は使われていない様子
・民生委員からの協力が必要不可欠で配布対象者が分からない
・地域によっては団員がおらず、配布が大変である
・活動する団員の高齢化
・ひとり暮らしは悩みが多いため、訪問を続けてほしいとの声を聞く
・奉仕団独自の持参品を付けている（ホットカイロ、タオル、ごみ袋、手作りお菓子、花鉢など）

②社資募集、赤十字運動 月間キャンペーン協力

【概要】

・団員が会員もしくは協力会員として協力（毎年500円以上）
・奉仕団が活動する地域内でも、社資の呼びかけ
・5月の赤十字運動月間中、地元のショッピングセンターなどで、赤十字の広報紙とポケットティッシュを配布し、赤十字のPR活動を実施
・有功章以上を受賞された方を5月の全国赤十字大会に招待

【参加者の声】

・会費と団費を同額集めている
・いきなりの会費値上げは無理
・委員長が呼びかけて、役員に2,000円の協力をしてもらった
・委員長になったので、今年度は少し多めに出した
・声かけの仕方が分からない
・お金の話はしにくい
・病気の返礼として出される方もいる
・地域の特性があると思う
・総会資料を持って団員の自宅を訪問しているが、大変
・社資の使われ方が分からない
・話す時、次第に理解してくれる

・赤十字活動を理解して、強制でないことを強調して募集しなければ
・一般家庭に集めに行きにくいので、企業を訪問している
・2万円で表札をもたえるが「いらない」という人も増えてきた
・「社資」「社費」



「会費」の言葉の違いが分かりづら
い
・周年行事に向けて、会費を積極的に募集している
・ポケットティッシュの中にパンフレットを入れる作業が負担である

③災害時における救援活動

【概要】

・主に、炊き出し
○耐熱性の袋（ハイゼックス）を使用した炊飯は、すべての奉仕団が行う
○災害時に行うために、年1回は訓練を行う。緊急招集のための連絡網を設けている奉仕団もある



○地域の防災訓練に参加

平成29年度から、6月に開催の日本赤十字富山県支部施設合同災害救護訓練に、赤十字奉仕団も炊き出し担当として参加開始

【参加者の声】

・減塩の炊き出しも考えたい
・衛生面での注意が必要だと感じている
・子どもたちと一緒に炊き出し体験を行っている（課外活動、PTA行事）
・親子で参加できる訓練をしたい
・学校に働きかけたいが、どうしたらよいか分からないし、学校によって対応が違う

・訓練参加者が多い場合、食改などの団体にも協力してもらった
・地域と連携することも必要（地域での子育てに活用してほしい）
・ハイゼックスの輪ゴム使用より、口を結ぶ方が良くはないか

④献血推進活動

【概要】



・街頭献血の呼びかけ
【参加者の声】
・支部からの割当に基づいて行っている
・役場の前でやっている
・看板があると注目されやすく、便利

⑤NHK海外たすけあい

【概要】

・県内の地域奉仕団は、地元のショッピングセンターなどで街頭募金の呼びかけを実施（地元の小学生や高校生と一緒に奉仕団も多数）
・街頭に立てない奉仕団は、団員同士で呼びかけ、協力

【参加者の声】

・東日本大震災のときに、海外からたくさんの救援金が届いたと聞いた
・小学生と一緒に呼びかけている

⑥講習受講

【概要】



・学校の先生からの理解が得られない
・呼びかけが終わったら、子どもたちとカレーを食べている
・廃品回収で得たお金を海外たすけあいに回している
・地元で、呼びかけに適したスーパーがない
・義援金の募金箱を地区センターに設置してもらっている

【概要】

・赤十字が実施する講習を受講
・住民運動会やイベントなどで救護班の役割を担う場合、定期的に受講してもらいたい
・奉仕団員も、地域住民も参加対象とした講習会を開催する団もある

○救急法（救命やAEDの取り扱い、けがの手当てなど）

○幼児安全法（子どもに起こりやすい事故の予防と手当て、病気など）

赤十字奉仕団は、富山県内における赤十字の広告塔です！
今後ともよろしく
お願いします！



○健康生活支援講習
（災害時高齢者生活支援）（地域で支える認知症）（高齢者に起こりやすい事故の予防、手当て、介護の知識と技術など）
【参加者の声】
・地域の方と一緒に受けたらいい
・毎年受講している
・土日もOKなら受講したい
・AED講習は消防で受講
・AED講習もやり方が少しずつ変わるので、毎年受講したほうが良い
・施設で、車イスを動かさないように言われている